



校長室通信

ぶんせき はさまたかふみ
文責 狭間卓史

「明日を拓く」～民泊農業体験～

10月28日(木)～30日(金)の二泊三日の日程で、本校一年生が民泊農業体験に学ばせていただきました。農業体験に取り組む学校は県内でも数校ありますが、地元農家さん宅に宿泊して取り組む学校はほとんどありません。そこには本町の基幹産業の一つでもある農業についてはもちろんのこと、地元農家の方々にじっくり学んで欲しいという本町教育委員会の願いがあつてのことでした。本年度の一年生は、新型コロナウイルス感染拡大防止の一環で「集団宿泊教室」を「自然体験教室」に衣替えし、日帰りでの実施だったため、初めての宿泊を伴う取り組みでした。生徒にとっては若干の不安もあつたはずですが、民泊先の方々の温かさに触れることができ、貴重な体験の機会となつたようです。最終日のランチバイキングでのプレゼンも堂々とした発表でしたが、そこにはまた一つ自分の暮らす町のこと大好きになつた子どもらの姿がありました。



【 あつという間の三日間 】

「未来の種」～まちインターン～

一年生の民泊農業体験と同じ期間に、本校二年生が「まちインターン」に学ばせていただきました。この「まちインターン」が一昨年度までの職場体験と異なるのは、実習先に自分のアイデアを伝えていくという特色があることです。今回の体験に際しては、コーディネーターの赤井友美さん(子供教育創造機構理事)から、「各事業所のファンを増やそう」という課題が設定されての取り組みでした。この様子は熊日新聞やKKTのテレビ番組、みなみチャンネルにも取り上げていただきましたし、SNS等で紹介して下さった事業所さんもあります。

この町で熱い思いを持って働いていらっしゃる方々に直に学べる機会は、何物にも代えがたい貴重な経験でした。受け入れ事業所の中には、本校卒業生の方もいらっしゃいました。自分自身が中学時代に職場体験をしたことが今につながっていることと、だからこそ今回のインターンを受け入れたいと思つたとの言葉も頂けました。そういう方々の温かな思いの中で本校生徒は学ばせていただきました。

今回、地域の方々からいただいた種がどのように芽吹き、枝を伸ばしていくのか楽しみです。



【 この町の温かさを実感 】